

## 【 まちの将来像3 】

みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち

## 施策評価シート

### 1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	本市の生涯学習に関する取組の基本となる計画を策定するとともに、市民、行政、教育機関などの連携により、社会的な課題や市民ニーズに対応した多様な学習の場や機会、情報などを提供し、市民の主体的な生涯学習活動を促します。 社会教育については、学校教育との連携を図りながら、これからの時代に求められる成人教育や、公民館活動の推進、図書館の機能の充実を図ります。			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	田川 正文
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—
		施策関係課	社会教育振興課、中央図書館		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-1-1	生涯学習推進体制の整備		
		3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進		
		3-1-3	成人教育の推進		
		3-1-4	公民館活動の推進		
		3-1-5	図書館サービスの充実		

### 2 H28年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	<b>B</b>	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(H28年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)	H28年度末現在の施策の主な課題			
		課題①	講座等の参加者の年齢層が限られているため、多様化する市民ニーズを把握したうえで事業を検討する必要があります。		
		課題②	より幅広い年齢層に向けた生涯学習情報の発信・提供方法について、検討する必要があります。		
		課題③	成人教育について、講習会等の参加者数は微増しているものの、参加者が固定化する傾向にあります。また、講習会等の内容についても、地域社会との連帯意識を図り、個人の要望だけでなく社会の要請を踏まえた学習内容の提供となるよう再考する必要があります。		
		課題④	地域の方が講座等の事業の企画、周知、実施をされているため、現代的課題・地域課題の解決に向けて、課題の共有、連携を図る必要があります。		
		課題⑤	貸出は増えているものの、より多くの市民の学習意欲に応える必要があります。また、子ども読書活動の推進を図り、さらに学校との連携を深める必要があります。		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

### 3 H29年度の施策の進め方

主な課題の解決に向けた施策展開		その他の施策展開
課題①への対応	多様化する市民ニーズを把握するため、アンケート調査を実施します。	大学連携講座について、市内大学の特色を活かした講座の定期的実施に向けてを検討します。
課題②への対応	生涯学習情報を冊子として発行し、効果的に配布します。	
課題③への対応	講習会・研修会等を開催するにあたり、幅広いの市民参加が得られるような実施時期・広報の方法の検討、市民の学習ニーズの把握に加え、社会の要請を踏まえたコミュニティ意識の醸成につながるような学習内容の提供に努めます。	
課題④への対応	各課の取り組みや他市事例などの情報を積極的に提供するとともに、住民ニーズの更なる把握に努めます。	
課題⑤への対応	広域利用について、事務手続き等の準備を進め、早期に開始します。継続して資料・情報の収集・提供を行います。	

### 4 H30年度以降の施策の方向性

主な課題の解決に向けた施策展開		その他の施策展開
課題①への対応	生涯学習施策を総合的に推進していくため、生涯学習推進計画の策定に向けて取り組みます。	
課題②への対応	他市等の事例も参考にしながら、情報発信媒体について検討します。	
課題③への対応	講習会・研修会等について、実施時期・広報の方法の工夫を継続して行い、多様な学習ニーズ及び社会の要請を踏まえた学習機会の提供に努めます。	
課題④への対応	各公民館において、現代的課題・地域課題の解決に向けた講習会等の実施を推進します。	
課題⑤への対応	継続して、資料・情報の収集・提供を行うとともに、サービス拠点の充実について検討します。また、子ども読書活動推進について、アンケート結果を踏まえた取組をすすめ、平成31年度策定予定の(仮称)第3次茨木市子ども読書活動推進計画へつなげます。	

### 5 H29年度及びH30年度以降の行財政改革の推進

H30年度以降の行財政改革の推進		該当する主な行革指針の具体的項目
1	従来の情報誌を廃止し、生涯学習情報誌を新たに発行することに伴う、編集ボランティア人数削減による謝礼費及び保険料の減。(28千円 内訳/謝礼費:25千円、保険料3千円)	2-3 業務の改善・改革
2	青年による人権啓発事業について、事業のあり方や講師の選定基準作成を検討することにより、事業費の平準化を図ります。	2-2 事務事業の見直し
3	現代的課題・地域課題の解決に向けた取り組みを推進するにあたり、各課と連携し、効率的な事業推進を図ります。	2-2 事務事業の見直し
4	平成29年度に中央図書館エレベータ改修工事設計、平成30年度以降エレベータ工事、屋上防水工事等を行い、利用者が安心して利用できる施設の維持・管理に努めます。	2-5 公共施設等の適正管理と有効活用 2-2 事務事業の見直し
5		
6		
7		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

## 6 施策内の取組の評価

★：重点プラン該当取組

1	取組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	庄田 哲也
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	生涯学習施設とあらゆる機関が連携し、多様な生涯学習の機会が提供されています。生涯学習の中で培った豊富な知識や技術を活用する機会が充実し、自己実現やまちづくり活動などの社会参加にいかされています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H28年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由 (H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	<p>きらめき講座の受講者数は、講座不開講等の要因もあり減少しましたが、生涯学習センター主催のきらめき講座やホール事業に加え、企業との連携講座を実施するなど、生涯学習の場を拡充するとともに、市職員を対象とした生涯学習に関する職員研修会を実施し、生涯学習の必要性について認識を共有しました。</p> <p>また、天文観覧室(プラネタリウム)については、利用者数は年々減少傾向にあります。ふるさと返礼品としてプラネタリウム貸切鑑賞券を出品するなどPRに努めるとともに、前年に引き続き、ホームページやフェイスブック等で積極的な情報提供を行いました。さらに今後、新規利用者数を増加させる企画を検討する必要があります。</p>				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H27年度	H28年度	
		生涯学習センター利用者数	人	↗	244,342	245,269	250,000(H31)
生涯学習センターきらめき講座、ジュニア講座受講者数	人	↗	2,575	2,446	2,600(H31)		
天文観覧室(プラネタリウム)利用者数	人	↗	13,534	12,758	14,500(H31)		

1	取組	3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	庄田 哲也
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	生涯にわたって学び成長し続けることで、新たな時代に対応し快適で豊かな人生が送れることにつながると多くの人が理解しています。多くの市民がいつでも自由に学習の場や機会を選択して、楽しく学ぶことができるよう情報提供が行われています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H28年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由 (H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	<p>平成28年度も前年度に引き続き、出前講座の受講者数が増加したことから、市民の学習意欲向上が図られたと評価できます。</p> <p>また、平成28年度には、市や市内大学・病院、国や府の機関が実施する生涯学習情報を集約し、ホームページに掲載するなど、より多くの市民が学習活動に参加できるよう努めました。しかしながら、きらめき講座電子申込件数は前年度より若干減少したことから、今後、きらめき講座以外の講座において、学生・勤労者が対象となる講座での申込方法を電子申込にするなど、引き続きICTを活用した生涯学習情報を発信していきます。</p>				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H27年度	H28年度	
		出前講座受講者数	人	↗	71,731	79,912	80,000(H31)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する			

★：重点プラン該当取組

1	取組	3-1-3	成人教育の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名 辻田新一	
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	成人が学習意欲をもって自己啓発に励み、充実した日常生活を送るとともに、学習成果を社会へ還元し、地域社会の連帯、活性化につながるよう、組織的な教育活動が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H28年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由 (H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	市民の自発的・主体的な学習活動や社会参加の促進を図るため、識字・日本語教室及び各種講習会等を実施し、現代的課題を人権の視点で考える機会として青年による人権啓発事業を行いました。また、市内の社会教育関係団体等においてリーダー的な立場で活動している方に対して、社会の問題や人権について学び、それを地域での活動に活かしていただくことを目的として社会教育関係団体等リーダー研修会を開催しました。周知方法の工夫を行う等により、これらの成人教育関連講習講座の参加者数は昨年度と比べ微増し、地域社会における連帯感、人権意識を高めることへの契機となりました。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H27年度	H28年度	
		成人教育関連講習講座の参加者数	人	→	1,103	1,244	1,055(H31)

1	取組	3-1-4	公民館活動の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名 辻田 新一	
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	住民が安心して豊かに暮らせる地域づくりのため、学習機会や情報が提供されています。それぞれの地域性をいかした地域づくり活動が活性化するための支援が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H28年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由 (H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	地域住民のニーズに対応した各種講座等を実施し、住民の主体的な学習活動を支援しました。また、現代的課題・地域課題の解決に向けた事業の取り組みとして、子ども読書活動推進計画に基づく読み聞かせの実施を促すとともに、公民館長会議において、消費者教育や地域の歴史にかかわる取り組みについて説明を行い、各公民館での実施に向けて検討を促しました。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H27年度	H28年度	
		小学校区公民館講座受講者数	人	↗	2,671	2,546	3,028(H31)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-1-5	図書館サービスの充実				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	中央図書館	課長名	川上 成人
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	地域の情報拠点として、必要な情報を得ることができ、調べものを行うなど、仕事や生活上の課題を解決するために利用されています。 乳幼児から高齢者まで、市民の暮らしに役立つ図書館サービスが提供されています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H28年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(H28年度取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	継続して資料・情報を収集・整理・保存し、提供するとともに、インターネット等を活用して電子資料サービスの充実を図りました。また、ボランティアと協働してさまざまな取組を行いました。子どもの読書活動推進については、ブックリストの対象年齢の拡大や中条図書館おはなし室の新設の他、学校との連携を深めました。さらに、北摂地区での図書館の広域利用について、平成29年度開始に向けて関係市町と調整を進めました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H27年度	H28年度	
		資料貸出点数	点	↗	3,580,539	3,892,606	4,088,000(H31)
蔵書冊数(書架容量等に応じた適切な蔵書構成)	冊	→	1,224,110	1,249,715	1,234,000(H31)		

## 施策評価シート

### 1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	スポーツ関係団体等と連携し、健康増進・生きがいつくりのイベント、スポーツ教室等を開催するとともに、各自の興味や年齢、体力、技能等に応じて、誰もが気軽に生涯スポーツに親しむことができる環境を整えます。また、本市のスポーツ推進に関する取組の基本となる計画を策定します。 地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークを構築します。			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	田川 正文
		施策主担当課	市民文化部	スポーツ推進課	-
		施策関係課			
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-2-1	多様な生涯スポーツ活動の推進		
		3-2-2	スポーツ関係団体や指導者の育成		

### 2 H28年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
	評価理由(H28年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		H28年度末現在の施策の主な課題		
2	平成28年度は、「茨木市スポーツ推進計画」に基づき、子どもや親子を対象とした「ボールゲームフェスタ」、高齢者を対象とした「ニュースポーツ大会」及び「体力測定」を開催し、スポーツイベントの充実を図りました。 スポーツ活動に関する情報発信として、市広報誌9月号に総合型地域スポーツクラブの活動特集を掲載するとともに、市ホームページに市体育協会加盟団体等が実施しているスポーツ教室等の一覧を掲載し、発信内容を充実しました。 生涯スポーツ指導者養成講座及び少年スポーツ指導者研修会の実施について、市広報誌で周知するとともに、会場をローズWAMに変更し、スポーツ指導者の受講者を増やすことができました。 以上のことから、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	運動をする子どもとしない子どもの二極化が懸念されています。また、働き世代や子育て世代のスポーツ活動意欲は高いですが、スポーツ活動が取り組めていません。	
			課題②	総合型地域スポーツクラブは、地域的な隔たりや地域限定的な情報発信になっている一面があり、周知は十分ではありません。また、市内で行われているスポーツ行事の認知度が低い状況にあります。	
			課題③	附帯設備の面で、高齢者や障害者にとって利用しにくい施設があります。	
			課題④	障害者と交流するスポーツを経験したことがある市民が少ない状態です。	
			課題⑤	各スポーツ関係団体が個々に活動を行っており、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた取り組みが十分ではありません。	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する

### 3 H29年度の施策の進め方

主な課題の解決に向けた施策展開		その他の施策展開
課題①への対応	スポーツ体験イベントを実施し、スポーツに関心を持ち、スポーツに取り組む子どもの育成を図ります。また、ウォーキング講習会、ウォーキングイベント(北部整備推進課主催)を実施し、成人が運動に取り組む機会を充実します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市で3つ目の総合型地域スポーツクラブを目指している団体の設立に向け、支援を行います。</li> <li>・2020年東京オリンピックホッケー競技の事前キャンプ誘致に向け、立命館大学と協議を進めます。</li> <li>・東京オリンピック・パラリンピック応援会議を立ち上げ、本市ゆかりの選手の応援等について検討するとともに、課題①～⑤への対応を図ります。</li> </ul>
課題②への対応	総合型地域スポーツクラブやスポーツ大会などに関する情報発信の充実を図ります。	
課題③への対応	福井運動広場において、多目的トイレの設置を進めます。	
課題④への対応	障害のある人が運動やスポーツに関心を持ち、参加できる機会を設けるとともに、障害のある人となない人が交流できるスポーツ大会の実施に取り組みます。	
課題⑤への対応	2020年東京オリンピック・パラリンピック出場を目指す本市ゆかりの選手の応援等の取組について、関係課、関係団体で構成する応援会議を設置して検討します。	

### 4 H30年度以降の施策の方向性

主な課題の解決に向けた施策展開		その他の施策展開
課題①への対応	引き続き、スポーツイベントを実施し、子どもがスポーツに取り組む機会の充実を図ります。また、市制70周年記念事業として、ウォーキングイベントの実施を検討し、成人の運動やスポーツへの参加機会の充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、2020年東京オリンピックホッケー競技の事前キャンプ誘致について、立命館大学と連携して取り組みます。</li> <li>・引き続き、東京オリンピック・パラリンピック応援会議において、本市ゆかりの選手の応援等について検討するとともに、課題①～⑤への対応を図ります。</li> </ul>
課題②への対応	スポーツ関係団体と連携し、スポーツに関する相談・助言を行います。	
課題③への対応	平成30年度において、福井運動広場に多目的トイレの設置工事を実施します。また、平成37年度までにさらに2か所増設します。	
課題④への対応	引き続き、障害がある人となない人が交流できるスポーツの大会を実施します。障害のある人がウォーキングイベントに参加できるように検討します。	
課題⑤への対応	引き続き、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、本市にゆかりのある選手への応援等に取り組みます。	

### 5 H29年度及びH30年度以降の行財政改革の推進

H30年度以降の行財政改革の推進		該当する主な行革指針の具体的項目
1	平成29年度に体育協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員協議会と連携し、子どものスポーツ体験イベント(キッズスポーツデー)を実施します。	4-1 効率的な組織運営
2	平成29年度にスポーツ教室(かけっこ)、スポーツ講習会(ウォーキング)を開催します。	1-3 民間委託、民営化等の推進
3	平成29年度に子どもや親子のスポーツ体験イベント(ボールゲームフェスタ)を実施します。	1-3 民間委託、民営化等の推進
4	平成29年度に障害がある人となない人が交流できるスポーツ(ボッチャ交流大会)を実施します。	1-3 民間委託、民営化等の推進
5	平成30年度に市民を対象にスポーツイベント(ウォーキング大会)の実施について検討します。	
6		
7		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する

## 6 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-2-1	多様な生涯スポーツ活動の推進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	スポーツ推進課	課長名	牧原 博孝
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	スポーツ関係団体等と連携し、いつでもどこでも気軽に参加できるよう、健康増進・生きがいがづくりのイベント、スポーツ教室等が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H28年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由 (H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		<b>b</b>	<p>明るく豊かで活力ある生活づくりや心身の健康の保持・増進を目的として、スポーツ・レクリエーション等に取り組む人が増加しており、市及び総合型地域スポーツクラブにおいてスポーツ教室・サークル活動を実施しました。</p> <p>平成27年度に策定したスポーツ推進計画に基づき、その推進に関わる庁内関係課の役割を明確にした上で連携を図るとともに、市民の健康増進・生きがいがづくりにつながる生涯スポーツを推進しました。</p>				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H27年度	H28年度	
		各市民体育館稼働率	%	→	82	82.7	83(H31)
市民プール利用者数(夏期を除く)	人	→	111,102	128,844	130,000(H31)		
市と市内の競技団体の共催によるスポーツ大会参加者数	人	↗	13,694	13,793	14,000(H31)		

1	取組	3-2-2	スポーツ関係団体や指導者の育成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	スポーツ推進課	課長名	牧原 博孝
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	スポーツ関係団体や地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークが構築されています。幅広い世代の人々が、生涯を通してスポーツを気軽に楽しめる機会を提供する総合型地域スポーツクラブが活発に活動しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H28年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由 (H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		<b>b</b>	<p>高齢者や障害者の増加や近年の健康志向の高まりから、スポーツを身近なものとして多くの市民が気軽に参加できる環境が求められています。その環境づくりのため、スポーツ指導者講習・研修会の参加者数を増加させることができました。</p>				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H27年度	H28年度	
		総合型地域スポーツクラブの会員数	人	↗	1,467	1,418	1,700(H31)
スポーツ指導者講習・研修会参加者数	人	↗	82	126	130(H31)		

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	文化振興ビジョンに基づき、市民の主体的な文化活動や交流を支援するとともに、子どもたちへの多様なアプローチを進めるなど、新しい担い手の発掘と育成を図ります。また、歴史遺産の保存と活用を推進し、拠点施設の機能充実を図り、市民の郷土愛を育むことで、歴史文化遺産を発展的に継承します			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	田川 正文
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—
		施策関係課	まち魅力発信課、社会教育振興課、中央図書館		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-3-1	市民との協働による文化のまちづくり		
		3-3-2	★文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり		
		3-3-3	★未来へ向けた文化芸術の担い手の育成		
		3-3-4	★歴史遺産の保存・継承		
		3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成		

2 H28年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	<b>B</b>	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。                  B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。                  C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。                  D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
評価理由(H28年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		H28年度末現在の施策の主な課題			
2	<p>市民との協働による文化のまちづくりを進めるため、茨木市文化芸術推進市民会議を開催し、市民及び文化関係団体、大学等の連携・交流を図りながら、文化振興ビジョンの推進に取り組みました。また、facebook等で文化振興事業を積極的に投稿した結果、2,856件の好意的な評価を得ました。                  文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくりとして、文化施設等の修繕等を行い、鑑賞や発表の機会を確保しました。市民ギャラリーには36,113人の入場が、文化振興イベントには19,628人の参加がありました。                  未来へ向けた文化芸術の担い手の育成としては、市庁舎をはじめとする公共施設を活用した「HUB-IBARAKI ART PROJECT」を開催し、茨木市在住の若手芸術家の育成に努めました。また、川端康成文学館俳句コンクールでは、学生応募者数が前年度に比べ1,170件とやや減少する一方で新たな学校からの応募も増えています。                  歴史遺産の保存・継承として、キリシタン遺物「天使讃仰図」「殉教者立像」の高精度複製品を製作し、キリシタン遺物史料館企画展において公開しました。また、本市の歴史的建造物(寺社)調査において、H27年度の予備調査をもとに、44件の本調査を行ったほか、埋蔵文化財発掘調査により出土した遺物の整理及び台帳作成を進め、報告書の刊行、速報展の開催を行いました。『新修茨木市史』は、計画された10巻すべての刊行を終え、発刊記念として記念シンポジウムも開催するなど、積極的な情報収集と発信にも努めています。                  郷土への愛着心とブランド形成については、川端康成文学館において、生誕月記念企画展や「古都」映画公開記念関連イベントを実施し、川端康成ゆかりのまちであることを市内外に積極的に周知しました。「私のふるさと」の直筆原稿を初公開したこともあり、年間入場者が8,263人に、夏休み企画展の入場者が1,042人に増加しました。                  以上のことから、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。</p>		課題①	「HUB-IBARAKI ART PROJECT」等の芸術イベントを協働で推進する人材がまだ不足しています。	
			課題②	立命館いばらきフューチャープラザグランドホールの利用料金や来場方法について、改善を求める声が寄せられています。	
			課題③	子どもたちが文化・芸術に触れる機会が充実していません。	
			課題④	歴史遺産の保存・継承として、キリシタン遺物の高精度複製品の製作を継続的に実施するためにも、遺物所有者の方に文化財保護の取組に対する理解を深めていただけるよう働きかけていく必要があります。	
			課題⑤	郷土への愛着心とブランド形成については、川端康成ゆかりのまちであるという強みを十分に生かしていません。	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

### 3 H29年度の施策の進め方

主な課題の解決に向けた施策展開		その他の施策展開
課題①への対応	「HUB-IBARAKI ART PROJECT」の実行委員会を再編し、芸術イベントを協働で推進する人材の育成に努めます。	埋蔵文化財発掘調査により出土した遺物の整理及び台帳作成を進め、報告書刊行に向けて取り組むとともに、その成果を市民へ還元するための速報展を開催します。
課題②への対応	立命館いばらきフューチャープラザグランドホール利用補助金を創設し、各種文化事業を支援するほか、イベント開催時における臨時駐輪場の設置にむけて、立命館大学と協議を行います。	
課題③への対応	小学生を対象とした茨木こども芸術講座を開催します。	
課題④への対応	キリシタン遺物のほとんどが個人所蔵であり、文化財資料館への寄託も含めて保存方法の啓発に取り組みます。同時に、複製品の製作を進め、保存と公開の調和を図っていきます。	
課題⑤への対応	(仮称)いばらき文学賞を創設し、作品を全国から募集します。	

### 4 H30年度以降の施策の方向性

主な課題の解決に向けた施策展開		その他の施策展開
課題①への対応	「HUB-IBARAKI ART PROJECT」の実行委員会を再編し、芸術イベントを協働で推進する人材の育成に努めます。	計画的な報告書刊行に向けて、継続的に出土遺物の整理及び台帳作成を進めるとともに、その成果を市民へ還元するための速報展を開催します。
課題②への対応	立命館いばらきフューチャープラザグランドホール利用補助金により、各種文化事業を支援します。	
課題③への対応	就学前児童や小学生を対象とした茨木こども芸術講座やイベントを開催します。	
課題④への対応	保存と公開の調和を念頭に、継続的な複製品製作に取り組むとともに、保存のあり方についても所有者の方々に理解を深めていただけるよう努めます。	
課題⑤への対応	(仮称)いばらき文学賞の創設やユニークな企画を積極的に検討することにより、川端康成ゆかりの地であることを周知し、郷土への愛着心の形成に努めます。	

### 5 H29年度及びH30年度以降の行財政改革の推進

H30年度以降の行財政改革の推進		該当する主な行革指針の具体的項目
1	市史編さん事業において収集された資料が教育委員会に移管されたことにより、資料調査・収集など重複する業務を整理し、業務の効率化を図ります。	2-2 事務事業の見直し
2		
3		
4		
5		
6		
7		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する			

## 6 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-3-1	市民との協働による文化のまちづくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名 庄田 哲也	
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市民の多様性、自主性を尊重することによる市民との協働や文化振興財団、文化芸術団体、大学等との連携により、文化芸術活動が活性化しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H28年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	今年度からfacebook、TwitterのSNSで文化振興事業を積極的に投稿したことにより、2,856件の好意的な評価を受けるなど、市内外に向けたPRを進めました。 また、茨木市文化芸術推進市民会議では、市民及び文化関係団体、大学等の連携・交流を図り、今年度から文化振興ビジョンを具体的に推進するための計画、事業づくりに取り組む場とするとともに、市民と芸術家・文化芸術団体をつなぎ、芸術への理解を促し、情報を発信する役割を果たす人材の育成に努めました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H27年度	H28年度	
		市立ギャラリー稼働率	%	→	95.7	95.3	100(H31)
SNS記事の好意的な評価数	件	↗	-	2,856	3,000(H31)		
提案公募型公益活動支援事業補助採択件数	件	↗	7	5	8(H31)		

1	取組	3-3-2	★文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名 庄田 哲也	
3	関係課	中央図書館					
4	目標 (前期基本計画より)	市内には文化芸術活動を行うことができる「場」として、文化施設等が数多くあり、音楽活動や美術作品の創作活動など、市民の活発な文化芸術活動を支えています。さらなる文化振興のためには、鑑賞や発表の機会の充実のため、施設整備を行い、鑑賞や実践の機会を設ける必要があります。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	イベント開催等により、気軽に文化芸術に触れる場づくり			
6	H28年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	音楽活動や美術作品の創作活動など、市民の活発な文化芸術活動を支えるため、適宜、文化施設等の修繕等を行い、鑑賞や発表の機会を確保しました。 市民ギャラリーには36,113人の入場が、また、文化振興イベントには19,628人の参加があり、多くの市民が文化芸術に触れることができました。 「まちなかアートツアー」を「HUB-IBARAKI ART PROJECT」と連携して実施し、16人の市民に芸術作品を身近に感じてもらう機会を提供しました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H27年度	H28年度	
		市立ギャラリー入場者数	人	→	34,485	36,113	39,000(H31)
文化振興イベント参加者数	人	↗	19,890	19,628	21,000(H31)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

★重点プラン該当取組

1	取組	3-3-3	★未来へ向けた文化芸術の担い手の育成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	庄田 哲也
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	文化芸術の教育現場による活用や、若手芸術家の育成などにより、次の世代が、未来に向かって育っています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	若手芸術家の育成・活動環境の形成			
6	H28年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	市民自らがさまざまな文化芸術活動に取り組み、定期的な公演や大会などに参加しました。また、「HUB-IBARAKI ART PROJECT」を開催し、若手芸術家の育成に努めるとともに、優れた作品を市役所庁舎をはじめとする公共施設に設置し、市民に身近に感じてもらう機会を提供しました。また、川端康成文学館俳句コンクールでは、1,170件の学生応募がありました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H27年度	H28年度	
		川端康成文学館俳句コンクール 学生応募者数	件	↗	1,381	1,170	1,400(H31)

1	取組	3-3-4	★歴史遺産の保存・継承				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課	まち魅力発信課					
4	目標 (前期基本計画より)	多くの市民がキリシタン遺物や銅鐸鋳型など、本市の貴重な歴史遺産や文化財に親しむ機会が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	貴重な文化財の市への移管促進			
6	H28年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	キリシタン遺物「天使讃仰図」「殉教者立像」の高精度複製品を製作し、キリシタン遺物史料館企画展において公開しました。 本市の歴史的建造物(寺社)調査において、H27年度の予備調査をもとに、44件の本調査をおこないました。 埋蔵文化財発掘調査により出土した遺物の整理及び台帳作成は順調に進行しており、報告書の刊行、速報展の開催をおこないました。 『新修茨木市史』は、計画された10巻すべての刊行を終え、発刊記念として記念シンポジウムも開催しました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H27年度	H28年度	
		文化財資料館テーマ展見学者数	人	↗	2,815	2,428	2,500(H31)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	庄田 哲也
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	<p>“茨木市らしさ”を形成する大切な文化資源を今後も大切に保存・継承することで、“茨木らしさ”を大切にす る気持ちや茨木市に対する愛着が育まれています。 また、多くの市民が文化のまちとしての誇りを持つブランドが形成されており、市内外に情報が発信されて います。</p>					
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし	内容				
6	H28年度末 現在の取組 の現状と課 題	取組の評価	評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	<p>川端康成文学館では生誕月記念企画展や「古都」映画公開記念関連イベントを実施するな ど、茨木市における文化の特色として川端康成文学館を周知しました。 「私のふるさと」の直筆原稿を初公開したこともあり、年間入場者が平成27年度の7,258人から 8,263人に、夏休み企画展の入場者が平成27年度の746人から1,042人に増加しました。</p>				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす 方向性	実績値		目標値(年度)
					H27年度	H28年度	
		川端康成文学館入場者数	人	↗	7,258	8,263	8,500(H31)
川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	↗	746	1,042	1,200(H31)		

## 施策評価シート

### 1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	茨木市の自然、歴史、文化、地域で生み出される特産品など豊富で魅力的な観光資源を最大限に活用し、市内外の人が訪れて「楽しい」と思ってもらえるよう、観光資源をつなぐ取組を推進します。さらに、観光協会と連携し、幅広い年代に応じた効果的な情報発信を行い、わがまちに誇りを持てる、観光をいかしたまちづくりを進めます。			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	産業環境部	部 長	吉田 誠
		施策主担当課	産業環境部	商工労政課	—
		施策関係課	北部整備推進課		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-4-1	★観光資源の発掘とネットワーク化の推進		
		3-4-2	観光情報の発信を強化		
		3-4-3	★官民協働で観光事業を推進		

### 2 H28年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	<b>B</b>	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(H28年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		H28年度末現在の施策の主な課題		
	本市の観光資源をつなぎ、活用する取組として、北部地域の魅力発信冊子「いばきた」と阪急バスの「環境(エコ)定期券制度」をタイアップした取組を実施するとともに、府や観光協会と連携したサイクリングマップの作成や、安威川フェスティバルなどのイベントも活用し、北部地域の魅力発信に努めました。 また、「阪急京都沿線観光あるき」のコースの見直しを行い、新たに北部地域を巡るコース(隠れキリシタンの里コース)を設定した結果、昨年に比べて31人の参加者増に繋がりました。 観光情報の発信については、本市ホームページ、SNS、広報誌を活用するほか、北おおさか信用金庫と追手門学院大学による「北摂エリアマッププロジェクト」での連携など、外部への情報提供を積極的に行いました。 民間団体と協働した「茨木フェスティバル」や「いばらき光の回廊」のほか、民間団体主催のイベントも多く開催され、誘客と賑わいが創出されました。民間主導イベントの継続を支援するため、「地域魅力アップイベント創出育成事業」を拡充し、2事業に対して支援を行いました。 そのほか、茨木市観光協会が実施する、黒井の清水大茶会や親子バスツアーをはじめ、ウォーキングイベントや情報発信などの各種観光事業について、支援を行いました。 また、本市の地域資源を有効に活用する手法を検討するため、平成28・29年度にかけて「資源活用・地域経済活性化実態調査」を実施しており、今年度は、本市の歴史、文化、施設、イベント等の認知度を把握するための調査を実施しました。 以上のことから、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	観光市場の活性化につながる施策を打ち出すために、市内の観光スポットやイベント等の認知度や来訪者の実態を把握することが必要です。	
			課題②	北部地域に点在する魅力や資源のネットワーク化が必要です。	
			課題③	定着してきたイベントも含め、認知度を高めるため、広く周知を図ることが重要です。	
			課題④	特に大規模イベントについては、集客だけでなく、地域経済の活性化にもつなげていくことが重要です。	
課題⑤			各種観光事業を実施している観光協会については、今後新たな事業を展開していくため、財源の確保を含め、自主的な運営に向けた体制強化が必要です。		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる

### 3 H29年度の施策の進め方

主な課題の解決に向けた施策展開		その他の施策展開
課題① への 対応	「資源活用・地域経済活性化実態調査」を進め、調査結果の集計・分析により、市内の地域資源の認知度や来訪状況、来訪者の実態等の把握を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安威川ダム等の周辺整備を、新たな資源として関係団体等と連携し取り組みを進めます。</li> <li>・様々な主体と連携した取組やイベントなどの魅力発信を、SNSなどによりタイムリーに行います。</li> </ul>
課題② への 対応	北部地域の魅力や資源のより一層のネットワーク化が進むよう、自転車を活用したイベントを実施するなど、引き続きプロモーションに取り組みます。	
課題③ への 対応	イベント等のメインターゲットを意識し、効果的な情報発信方法での周知に努めます。	
課題④ への 対応	「資源活用・地域経済活性化実態調査」を進め、調査結果の集計・分析により、市内の地域資源の認知度や来訪状況、来訪者の消費実態や満足度等の把握を行います。	
課題⑤ への 対応	観光協会との連携を密にし、現状の課題の抽出を行います。	

### 4 H30年度以降の施策の方向性

主な課題の解決に向けた施策展開		その他の施策展開
課題① への 対応	調査結果を踏まえて、既存資源だけでなく、今後整備される新たな資源も含め、民間活力の導入を促しながら、集客力を高める手法や本市の経済活性化につながる観光施策の検討を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安威川ダム等の周辺整備を、新たな資源として関係団体等と連携し取り組みを進めます。</li> <li>・様々な主体と連携した取組やイベントなどの魅力発信を、SNSなどによりタイムリーに行います。</li> </ul>
課題② への 対応	地域や関係団体、大学等とも連携し、イベントなども実施しながら、引き続き魅力のネットワーク化に取り組みます。	
課題③ への 対応	「資源活用・地域経済活性化実態調査」の結果を踏まえ、民間主体との連携も含めた、多角的な情報発信に努めます。	
課題④ への 対応	「資源活用・地域経済活性化実態調査」の結果を踏まえて、引き続き、民間団体等と連携を図り、市内事業所への誘客や波及効果につながるよう、各事業の推進に努めます。	
課題⑤ への 対応	市と観光協会のそれぞれの役割を整理するとともに、観光協会の自主財源の確保につながる事業について検討を進めます。	

### 5 H29年度及びH30年度以降の行財政改革の推進

H30年度以降の行財政改革の推進		該当する主な行革指針の具体的項目
1	実態調査の結果も踏まえ、新たな事業の実施にあたっては、国の補助金等の情報収集に努め、積極的に活用します。	3-3 新たな財源の確保
2		
3		
4		
5		
6		
7		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる			

## 6 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-4-1 ★観光資源の発掘とネットワーク化の推進					
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名 徳永 嘉朗	
3	関係課	北部整備推進課					
4	目標 (前期基本計画より)	市の観光資源をいかした多彩な企画が催されています。また、豊かな自然をいかし、各所でもぎ取り園など農業関連イベントが開催され、多くの市民で賑わっています。 新たに整備された観光資源ネットワークが市民に周知され、多様なイベント・企画によって世代性別を問わず訪れた人々で賑わっています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	既存観光資源のネットワーク化と新しい資源の創出			
6	H28年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	北部地域の魅力発信冊子「いばきた」を継続的に公共施設やイベントで配布するとともに、府や観光協会と連携のもと、サイクリングマップを作成するなど、北部地域を回遊するファンづくりに努めました。 また、「阪急京都沿線観光あるき」については、コースの見直しを行い、新たに北部地域を巡るコース(隠れキリシタンの里コース)を設定した結果、参加者の増加に繋がりました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H27年度	H28年度	
		「阪急京都沿線観光あるき」参加者数	人	↗	36	67	60(H31)
「いばらき観光ウォーク」参加者数	人	↗	551	456	600(H31)		

1	取組	3-4-2 観光情報の発信を強化					
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名 徳永 嘉朗	
3	関係課	北部整備推進課					
4	目標 (前期基本計画より)	積極的な情報発信により、イベントや企画が多くの人で賑わっています。 観光に訪れようとする市内外の人たちが、容易に必要な情報を取得できる環境が整っています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H28年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	本市ホームページ、SNS、広報誌からの情報発信のほか、北おおさか信用金庫と追手門学院大学による「北摂エリアマッププロジェクト」での連携など、外部の広報媒体への情報提供を積極的に行いました。 また、観光協会などと連携し、小冊子「いばきた」と阪急バスの「環境(エコ)定期券制度」をタイアップした取組を実施するとともに、安威川フェスティバルなどのイベントも活用し、北部地域の魅力発信にも努めました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H27年度	H28年度	
		観光協会ホームページのアクセス数	件	↗	240,000	228,260	250,000(H31)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-4-3 ★官民協働で観光事業を推進								
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	徳永 嘉朗			
3	関係課									
4	目標 (前期基本計画より)	市民や関係団体が主体的に加わるかたちで観光の振興が進められ、まちが活性化し、賑わいが創出されています。								
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)		内容	イベントなど官民協働での観光まちづくり					
6	H28年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価		評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)						
		a		官民協働で実施する「茨木フェスティバル」「いばらき光の回廊」のほか、民間団体主催のイベントも多く開催され、誘客と賑わいが創出されました。「地域魅力アップイベント創出育成事業」を改編し、民間主導イベントの支援を拡充したほか、茨木市観光協会が実施する各種観光事業に対して支援を行いました。						
				また、本市の地域資源の有効活用に向けた検討材料とするため、平成28・29年度にかけて「資源活用・地域経済活性化実態調査」を実施しており、今年度は、本市の歴史、文化、施設、イベント等の認知度を把握するための調査を実施しました。						
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ		参考指標		単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						H27年度	H28年度			
				主要観光イベントの集客数	人	→	756,000	1,117,000	800,000(H31)	

## 施策評価シート

### 1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化をすすめる		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	国内外の姉妹都市を中心とした市民レベルの交流を促し、他地域の文化の理解を深めるとともに、さまざまな分野での文化活動の交流を図ります。さらに、市民の異文化理解活動を支援し、国籍を超えた多彩な交流を進めます。			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	田川 正文
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—
		施策関係課			
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-5-1	都市間交流の促進		
		3-5-2	地域国際化を推進するための環境整備		

### 2 H28年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	<b>B</b>	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(H28年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)	H28年度末現在の施策の主な課題			
		課題①	姉妹都市等についてより多くの人に知ってもらい、理解を深めるため、発信方法を工夫するなどして周知の取り組みを行っていく必要があります。		
		課題②	日本語が得意でない外国人市民が行政手続きをする際、さらにスムーズにできるよう、現行制度の周知に加え、さらなる支援策の充実を図る必要があります。		
		課題③	在住外国人がより暮らしやすいよう、行政情報の多言語化の希望などニーズを把握し、具体的な環境整備等を行うため、在住外国人の状況を把握する必要があります。		
		課題④			
		課題⑤			

姉妹都市等との交流について、国内姉妹都市の宿泊施設利用補助制度利用者数は、熊本地震の影響等で、平成27年度の463人から403人にやや減少しましたが、各都市へ訪問団を派遣する茨木市国際親善都市協会を支援することにより、活発な交流と異なる文化への理解が進んでいます。

生活ガイドブック(英語版・中国語版)の配布や、茨木市国際親善都市協会と連携し、在住外国人に日本語を教えるボランティア活動である日本語学習会や協会から派遣される行政通訳ボランティア制度を支援するなど、在住外国人の生活環境の向上にも努めました。

また、青少年を中心とした英語スピーチ大会、市民と在住外国人との交流の機会となるイベントや市内留学生等のホームビジットの受入れ等、市民レベルでの異文化交流を進めてきました。

交流事業への参加者数も、主要なイベントの参加者数は平成27年度の546人から592人へと増加し、日本語学習会・行政通訳ボランティア制度についても周知しました。

以上のことから、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化をすすめる

### 3 H29年度の施策の進め方

主な課題の解決に向けた施策展開		その他の施策展開
課題①への対応	宿泊施設利用補助制度をSNS等を利用してPRし、訪問者の増加に繋がります。	茨木市国際親善都市協会の補助金について、市としての今後の方向性を検討します。
課題②への対応	行政情報の多言語化や行政通訳等、言語支援の充実を検討します。	
課題③への対応	在住外国人対象にアンケートを実施し、ニーズ把握を行います。	
課題④への対応		
課題⑤への対応		

### 4 H30年度以降の施策の方向性

主な課題の解決に向けた施策展開		その他の施策展開
課題①への対応	茨木市国際親善都市協会等と連携・協働することで、交流を推進します。	茨木市国際親善都市協会の補助金について、補助金額や補助のあり方について整理します。
課題②への対応	アンケート結果を踏まえ、ニーズに合致した言語支援の推進を図ります。	
課題③への対応	アンケート結果をもとに、多様な文化・国籍の人々が生活しやすい環境づくりを進めます。	
課題④への対応		
課題⑤への対応		

### 5 H29年度及びH30年度以降の行財政改革の推進

	H30年度以降の行財政改革の推進	該当する主な行革指針の具体的項目
1	平成29年度に茨木市国際親善都市協会の補助金について、支出内容の精査などにより、補助金額を見直します。	2-4 補助金、扶助費等の見直し
2		
3		
4		
5		
6		
7		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化をすすめる			

## 6 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-5-1	都市間交流の促進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名 庄田 哲也	
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市民や関連団体等との連携により、交流が活性化し、さまざまな「つながり」が生まれています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H28年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由 (H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	フリーペーパー「竹田と茨木」実行委員会と共に情報誌「たけたといばらき」を発行し、竹田市と茨木市のゆかりや魅力を広く市民に周知することができました。 また、茨木市国際親善都市協会と連携し、国内外の姉妹都市と子どもの絵画・書の交換事業や訪問団派遣等の交流事業を行いました。 宿泊施設利用補助制度利用者数については、熊本地震の影響で竹田市への旅行を控える動きがあったこと等から減少しました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H27年度	H28年度	
		宿泊施設利用補助制度利用者数(小豆島町・竹田市)	人	↗	463	403	500(H31)
小豆島オーブマラソン申込者数	人	↗	57	53	60(H31)		

1	取組	3-5-2	地域国際化を推進するための環境整備				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名 庄田 哲也	
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市内に在住する外国人が暮らしやすく、また、外国人訪問客が周遊しやすい環境が整っています。市内に住む人々が国籍を超えて交流しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H28年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由 (H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	生活ガイドブック(英語版・中国語版)の内容を更新すると共に、次年度以降の内容更新に向けても、庁内で掲載内容の希望アンケートを行いました。 また、茨木市国際親善都市協会と連携し、在住外国人に日本語を教えるボランティア活動の支援や中高生を中心とした英語スピーチ大会、市民と在住外国人・留学生との交流イベント、留学生等のホームビジットの受入れ等、異文化交流を進めました。市内大学とも連携し、ホームビジット説明会の開催や行政文書の留学生による翻訳などを実施しました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H27年度	H28年度	
		国際交流の集い参加者数	人	→	272	306	300(H31)
英語スピーチ大会参加者数	人	→	274	286	300(H31)		